

ニューロナースの疑問に答える！

脳神経疾患画像診断レクチャー

疾患の基礎知識、画像を見るときのポイントなど脳神経疾患画像にまつわるナースの素朴な疑問に1問1答形式でズバッとお答えします！

第11回

悪性リンパ腫・ 転移性脳腫瘍



執筆 | 土屋一洋 (杏林大学医学部 放射線医学教室 准教授)

企画

土屋一洋 (杏林大学医学部 放射線医学教室 准教授)

つちや・かずひろ：1980年 北海道大学医学部卒業、同年 東大附属病院 放射線科 研修医、1981年 同 助手、1984年 公立昭和病院 放射線科 科長、1985年 防衛医科大学校 放射線医学教室 助手、1993年 杏林大学医学部 放射線医学教室 講師を経て、2000年より同 助教授 (2007年より准教授)。

① 悪性リンパ腫のCT

症例

62歳の女性

半年前からしばしば頭痛を訴えていた。構語障害や軽度の右片麻痺が加わって来院。

単純CT像

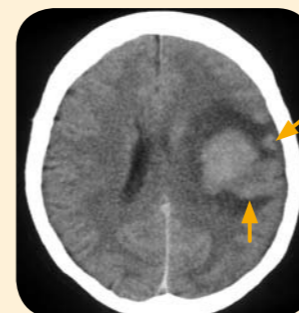


造影CT像



画像所見

単純CT像



左の前頭葉深部に軽度の高吸収を示す病変があり、周囲に浮腫を思わせる低吸収域やごく軽度の高吸収を示す領域(→)が取り巻いている。

造影CT像



腫瘍の高吸収域はやや不均一ながらかなりの増強効果を示す(→)。

Q1



脳の悪性リンパ腫とはどういう病態ですか？

脳原発の悪性リンパ腫 (primary central nervous system lymphoma ; PCNSL) と他臓器のリンパ腫が進展・浸潤した2次性のリンパ腫に分けられます。ここではより一般的な前者について解説します。中枢神経系にはリンパ組織は存在しないので、実際には脳以外に発生したリンパ腫細胞が脳の血管内皮になんらかの機序で浸潤増殖する、あるいは脳に侵入したリンパ球が腫瘍化するなどの機序が考えられています。日本では、脳腫瘍のうち悪性リンパ腫の占める割合は約3%とされていますが、近年明らかに増加傾向にあります。免疫不全状態 (AIDS や薬剤によるものなど) で発生頻度が高いことがよく知られていますが、免疫能正常者でのPCNSLも増えています。好発年齢は、免疫能正常者では50～70歳代で、性別では男性にやや多くみられます。

脳の悪性リンパ腫

脳原発 2次性

- 脳以外に発生したリンパ腫細胞が脳の血管内皮に浸潤増殖、あるいは脳に侵入したリンパ球が腫瘍化
- 日本では脳腫瘍のうち悪性リンパ腫の占める割合は約3% (近年増加傾向)
- 免疫不全状態で発生頻度が高い
- 好発年齢は50～70歳代、男性にやや多い

Q2

脳の悪性リンパ腫には一般的にどのような症状がありますか？



頭痛、意識障害からけいれん、その他の局所症状など、病変の部位や大きさなどによってさまざまであり、非特異的です。

頭痛 意識障害 けいれん



病変の部位や大きさにより症状はさまざま